

# せったん

第172号 2017年11月5日

● 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
● 行 TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802

## 北摂・丹波支部ニュース



北摂・丹波支部は10月15日、9回目となる市民公開企画として映画「この世界の片隅に」上映会を三田市内で開催。中西透副支部長が司会を務め、医師・歯科医師や市民ら104人が参加した。

## 市民公開企画 映画「この世界の片隅に」上映会

# “みんなを不幸にする戦争 絶対に起こしてはならない”



中西先生(左)が司会を務め、104人の市民が集まった



絵を描くことが大好きな主人公のすず (C)「この世界の片隅に」製作委員会

映画「この世界の片隅に」は、主人公のすずが、戦時下においても工夫を凝らし生きる姿を描いている。すずは戦争の只中の1944年、18歳で顔も見たことのない若者に嫁ぎ、呉へやってくる。それまで得意な絵を描いてばかりだった彼女は、一転して一家を支える主婦に。戦時下で物資が不足する中でも、人間らしくあろうと、明るさと工夫で日常を乗り切っていた。

代はもつともつとひどく、青春はなかった。アニメなので少々緩やかな気持ちで観ました。(70代女性)  
・三度許すまじ原爆を。絶対に戦争を起こしてはなりません。(70代女性)  
・観たいと思っていた映画だったので、観に来て本当に良かったです。涙をそそる物語ではなく、戦争反対の気持ちはずしつと心にひびきました。いつまでも戦争のない世の中であってほしい。(50代男性)  
・ほんの70年前の日本の女性の姿、長い間の女性の地位の低さや辛抱の連続であつた生活。日本人の生活は大きく変わって豊かになったのか、人間性が問われる日常でもある。日本人の本当の良さを忘れさせるこの頃、いろいろと考えさせられた。戦争はもちろんしてはならないことを忘れ、薄れてしまっているのではないのでしょうか。(70代女性)

### 参加者から

・戦時中10代を過ごしたのが大変なつかしく、私の10

・色彩が美しく、かつ大事にしなればと思うことをやさしく温かく、私の心に届けていただきました。まさに秀作だと思います。(70代男性)

・以前から観たいと

思っており、丹波から来ました。子どもさんが多く来られていたことは良かったです。感動するような映画が今後上映されることを願っています。(60代女性)

・戦争中の映画を観るときは非日常としてとらえて別次元の出来事と感じていたのですが、この作品は普通の日々をていねいに描いていたので、かえって戦争の恐ろしさが際立っていました。(50代女性)

とか平和になるよう願わずにはいられません。

今も戦争している国の子どもたちはアイスクリームやたつた一粒のアメを口にするのもなく、死んでいるのかも。日本はきれいな水を口にすることができるとも幸せかと思いません。(70代男性)

(70代男性)

兵庫県保険医協会 北摂・丹波支部 医療安全管理対策研修会

## 医療機関内での感染対策ラウンド(見回り)のポイントとコツ

日時 11月11日(土)15時~17時

会場 篠山市四季の森生涯学習センター東館 会議室1

(篠山市網掛429 篠山口駅より徒歩約10分、丹南篠山口インターよりすぐ)

講師 小川 麻由美氏(済生会兵庫県病院 感染管理認定看護師)

参加費 1,000円 (受講された方には受講証を発行します)

感染対策の一環として、現場での感染対策が正しく行えているかを定期的にチェックすることは重要です。医療機関各所でラウンド(見回り)を行い、感染対策上の問題点を抽出し改善することで、感染症の発生やアウトブレイクを未然に防ぐことにつながることができます。皆さまは感染対策の視点からのラウンドを定期的に行っているでしょうか?



今回はどのような感染対策ラウンドを行えばよいのか、ラウンドの視点のポイントとコツをお伝えしたいと思います。

ここで学んだことを自施設に持ち帰り、感染対策の評価と今後の対策を講じていただくきっかけになればと考えています。講師は、済生会兵庫県病院で感染管理認定看護師として活躍されている小川麻由美さんにお話をいただきます。

医療法で「医療安全管理」「院内感染対策」に関しては、**職員・従業者の研修を年2回程度実施**することが求められています。無床診療所(医科・歯科)の場合は、外部研修でも認められていますので、この機会をぜひご活用ください。なお協会未入会の医療機関は入会の上ご参加ください。

お問い合わせは、078-393-1807・9 三田・石本まで

FAX(078)393-1820

北摂・丹波支部「医療安全管理対策研修会」参加申込書 (11月11日)

| 参加者名 | 職種 |
|------|----|
|      |    |
|      |    |
|      |    |
|      |    |

地区( ) 医療機関名( )

ご担当者名( ) ご連絡先( )

## 財務省が診療報酬2%以上引き下げ方針表明

このままマイナス改定を許すことはできません

### 「診療報酬引き上げ」「窓口負担軽減」を求める

### 医師 歯科医師 署名にご協力を!

理事長 西山 裕康

来春に行われる次期診療報酬改定に際し、協会・全国保険医団体連合会(保団連)は、診療報酬引き上げ、患者窓口負担軽減を実現するために会員署名を集めています(右)。

総選挙が終わるや否や、財務省は診療報酬の2%台後半の引き下げ方針を表明しました。財務省の根拠のない主張をこのまま許しておくことはできません。中医協委員や国会議員などへの要請を行うために、現場の先生方のお声が必要です。現在のところ正会員6千名のうち、約1千名の先生方から署名のご協力をいただいています。協会は2千筆以上の署名を目標にしています。ご多忙の先生にお手をとめていただくのは真に恐縮ですが、ぜひとも趣旨にご賛同いただき、FAXにてお送りしている別紙にご署名のうえ、返信賜りたく、あらためてお願い申し上げる次第です。

医療機関が適切な医療水準を提供できるよう、初・再診料をはじめとした診療報酬の引き上げは喫緊の課題です。また、現場の実態にあわない不合理の是正や、医療現場を混乱させないような十分な周知期間の設定も重要です。

また、会員署名では、診療報酬引き上げとともに、患者さんが安心して受診できるよう、窓口負担の軽減も求めています。

集まった署名は、役員が11月16日に、厚労省や財務省など関係各機関、国会議員に提出する予定です。皆さまのご協力をお願いいたします。

用紙はFAXにてお届けしています。住所・医療機関名・氏名をご記入いただき(ゴム印でも結構です)、ファックス(078-393-1802)までご返信をお願いします。

内閣府大臣 閣  
厚生労働大臣 閣  
財務大臣 閣  
国会議員 各位  
中医協委員各位

2017年 月 日

### 診療報酬の引き上げと患者窓口負担の軽減を求める 医師・歯科医師要請署名

診療報酬のマイナス改定が2002年以降繰り返された結果、医療機関は維持し必要な医療提供に支障をきたしています。  
一昨年の「医療経済実態」調査結果について厚生労働省は「一般診療所全体の償還率は、入院収入の増減に拘らず悪化している」と報告し、中医協の診療報酬委員も「人件費を赤字に拡大抑えて、医療機関は何とか経営をしている」と指摘しています。  
初・再診料をはじめ、医療機関が患者さんに提供する医療水準を担保できるよう、医療従事者の技術を正當に評価するとともに、診療所や病院それぞれの医療施設の基盤強化のためにも診療報酬の引き上げは必要です。  
また、全国保険医団体連合会が2015年に会員医療機関を対象に実施した調査では、回答した医療機関の約4割で患者さんの経済的理由による診療中断を経験していました。診療報酬の引き上げとともに、安心して受診できるように、患者窓口負担割合の軽減や高額療養費制度の患者負担限度額の引き下げなど、「患者窓口負担の軽減」が必要です。  
私たち医師・歯科医師は、以下の事項を要望いたします。

記

一、国民に安全、安心で、必要な医療を提供するため、  
診療報酬を、法外料を中心に、医科・歯科とも10%以上引き上げること

一、新たな患者負担増の計画は中止し、患者窓口負担を軽減すること

以上

住 所：  
医療機関名：  
氏 名：  
印(一)